

太田市健康づくり計画

最終評価報告書

平成 30 年 2 月

太 田 市

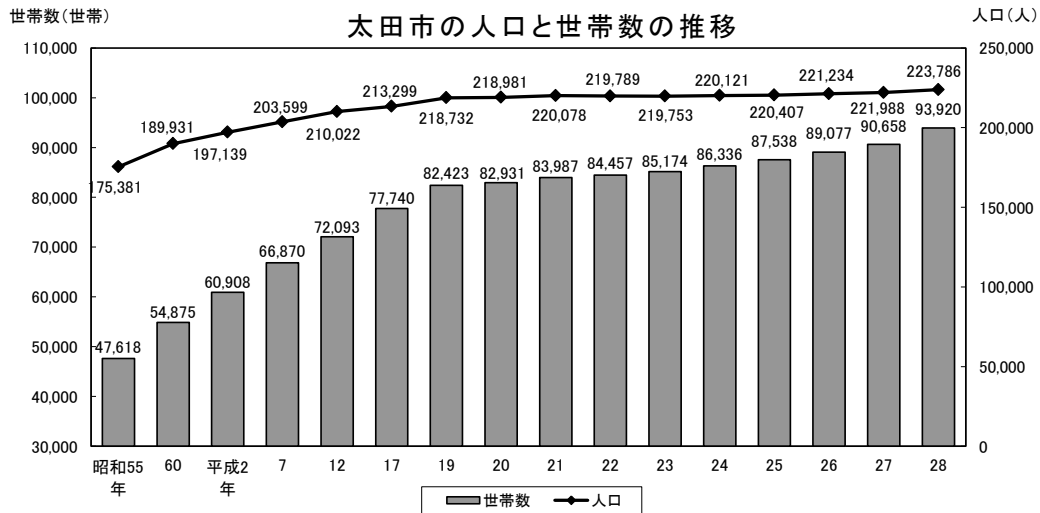
【目次】

1	統計から見た現状.....	1
2	健康おおた21 実施事業概要.....	9
3	「健康おおた21」役割施策.....	11
4	「健康おおた21」最終評価について.....	13
	【資料】評価指標と目標値一覧.....	20

1 統計から見た現状

(1) 人口及び世帯数

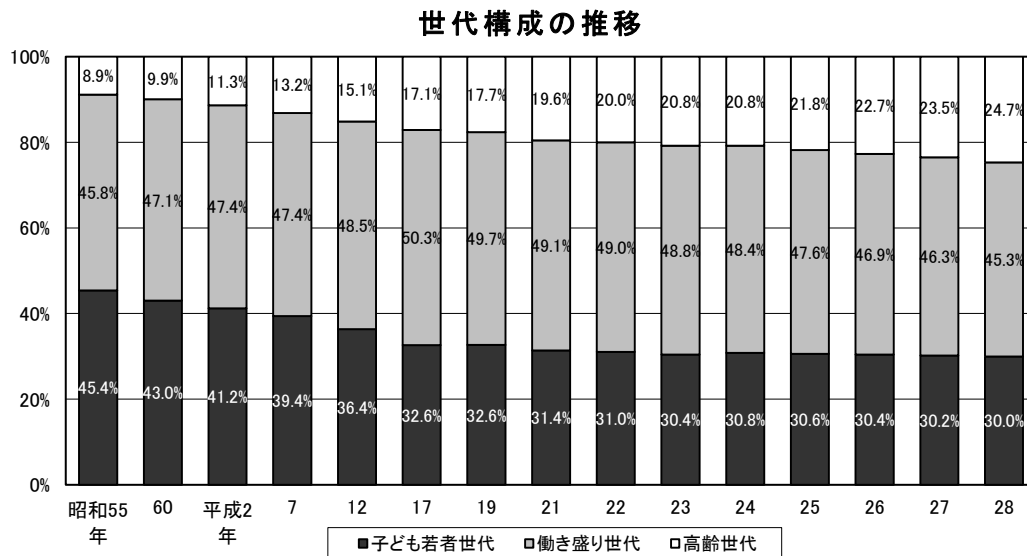
人口を見ると、年々増加しており、昭和 55 年に比べ平成 28 年では約 4 万 8 千人の増加となっています。また、世帯数も年々増加しており、昭和 55 年に比べ平成 28 年では約 4 万 6 千世帯の増加となっています。



※出典：昭和 55 年～17 年は国勢調査（ただし、昭和 55 年～平成 12 年までは、旧太田市～旧新田町、旧尾島町、旧藪塚本町の数値を合計）、平成 19 年～太田市統計より 基準日 3/31

(2) 世代構成

世代別の人口割合を見ると、昭和 55 年に比べ、平成 28 年は、子ども若者世代（0 歳～29 歳まで）が 15.4 ポイントの減少、高齢世代（65 歳以上）は 15.8 ポイントの増加となっており、少子高齢化の傾向が見られます。

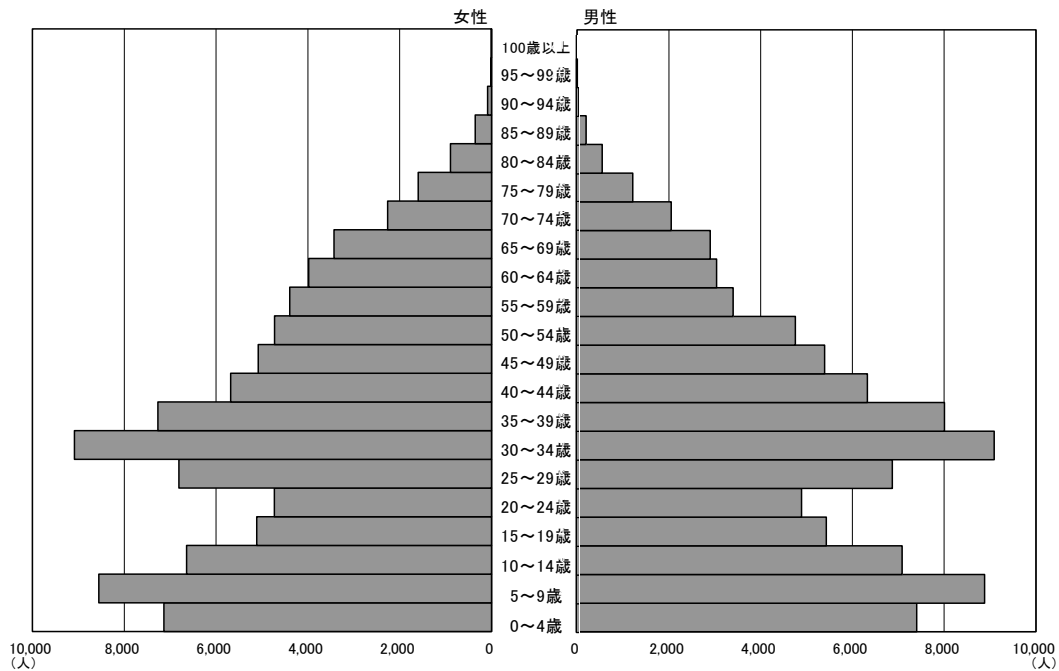


※出典：昭和 55 年～17 年は国勢調査（ただし、昭和 55 年～平成 12 年までは、旧太田市～旧新田町、旧尾島町、旧藪塚本町の数値を合計）、平成 19 年～太田市統計より 基準日 3/31

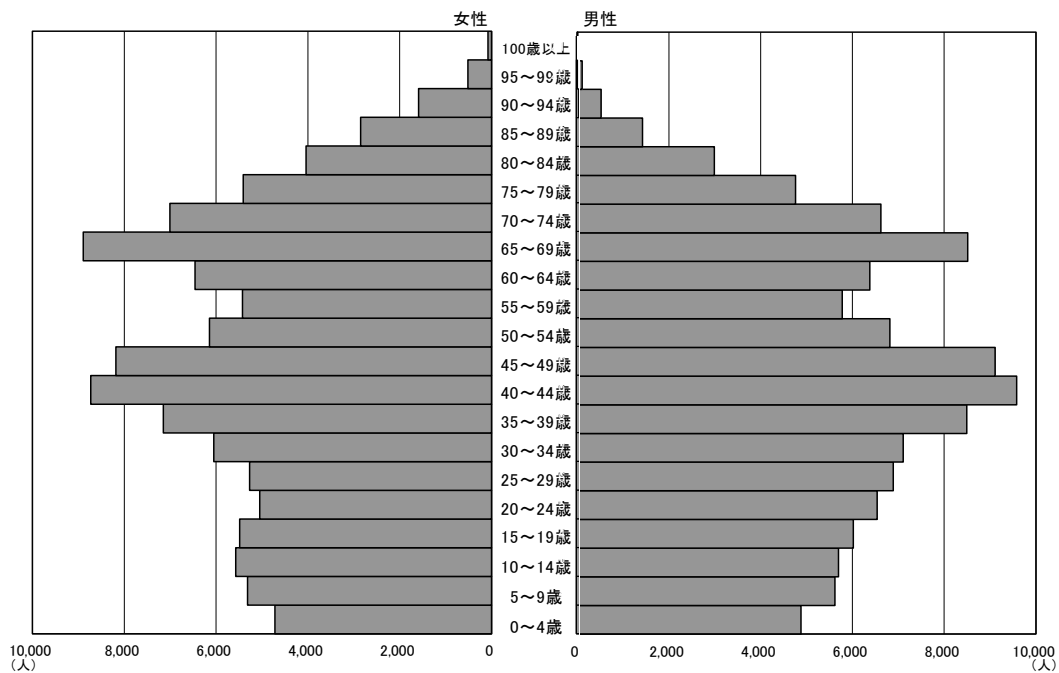
(3) 人口ピラミッドの変遷

昭和 55 年の人口ピラミッドは通称「星型」と呼ばれ、ベビーブームを反映し、9 歳以下及び 30 歳から 39 歳が多くなっています。一方、平成 28 年の人口ピラミッドは「釣鐘型」と呼ばれ、こどもが少なく壮年期、前期高年期が多くなっています。

昭和 55 年の人口ピラミッド



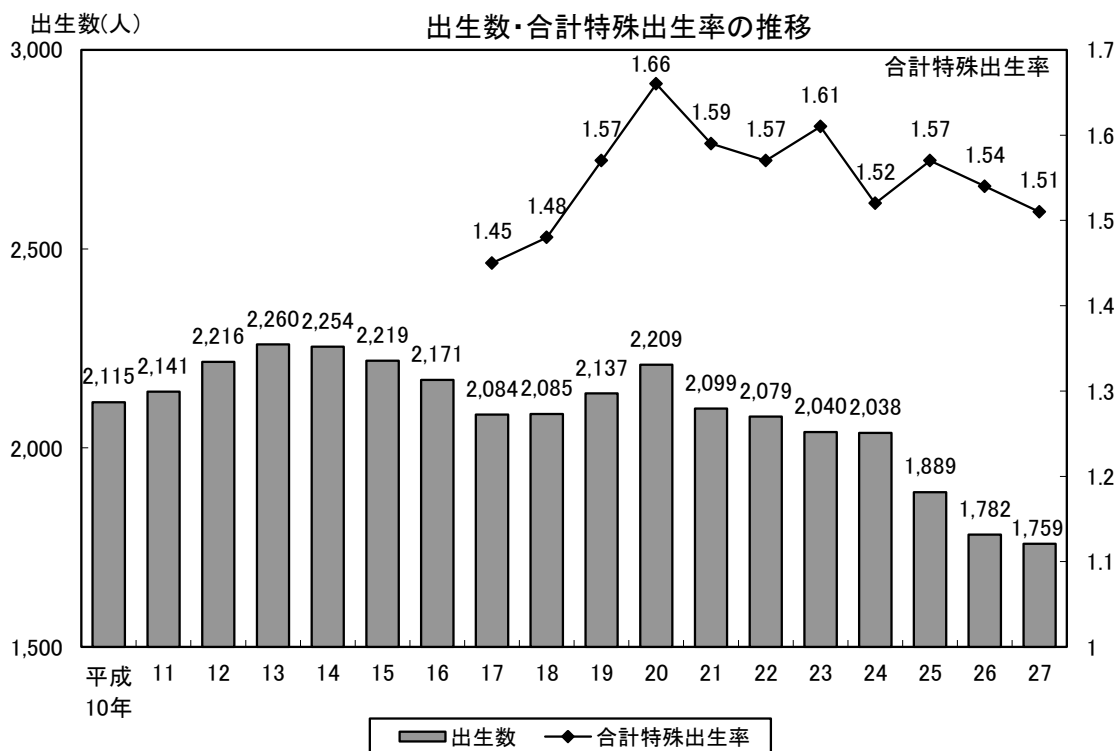
平成 27 年の人口ピラミッド



※出典：昭和 55 年は国勢調査、平成 27 年は太田市統計（平成 27 年 3 月 31 日）より

(4) 出生数の状況

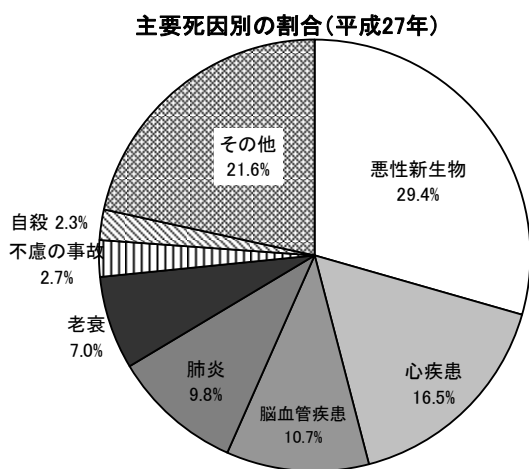
平成20年をピークに出生数は減少しています。



※出典：健康福祉統計（群馬県健康福祉局）
合計特殊出生率は合併後太田市の出生率の数値

(5) 主要死因別死亡者数の割合

悪性新生物（がん）の割合がもっとも高く、心疾患、脳血管疾患、肺炎の順になっています。



原因	年	平成17年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
悪性新生物		504人	540人	532人	575人	532人	581人
心疾患		246人	305人	307人	273人	304人	326人
肺炎		199人	231人	243人	233人	225人	193人
脳血管疾患		260人	211人	202人	197人	178人	211人
不慮の事故		69人	58人	66人	65人	58人	54人
自殺		59人	43人	50人	64人	49人	45人
老衰		43人	86人	107人	106人	137人	138人
その他		383人	484人	512人	461人	486人	426人
死亡総数		1,763人	1,958人	2,019人	1,974人	1,969人	1,974人

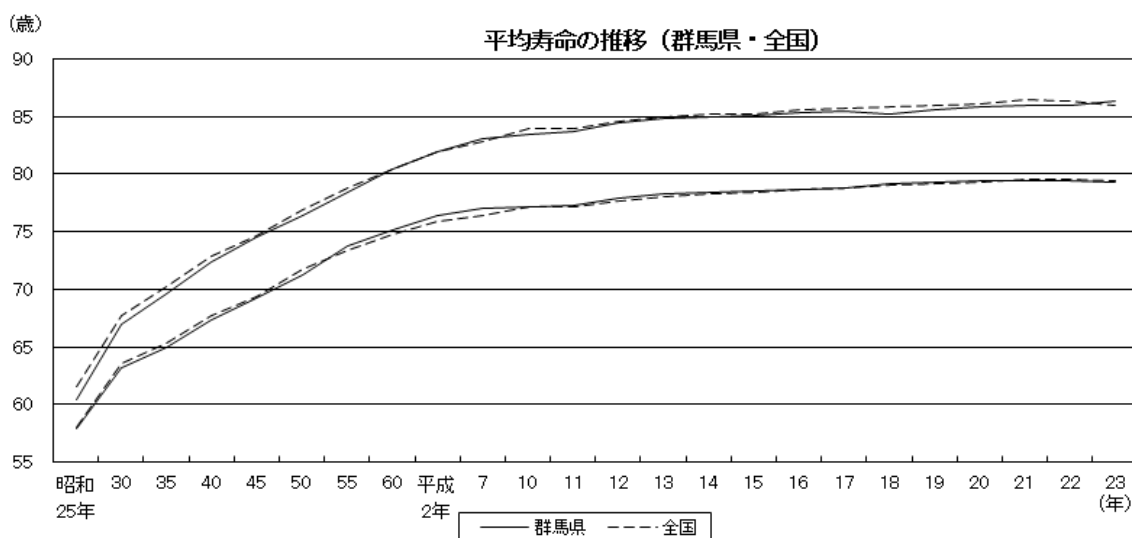
※出典：健康福祉統計（群馬県健康福祉局）

(6) 平均寿命の比較と推移

平均寿命の比較

区分	男性	女性	男性	女性	男性	女性
国勢調査年	平成 17 年		平成 22 年		平成 27 年	
太田市	78.5歳	85.0歳	78.8歳	85.6歳	80.53歳	86.84歳
群馬県	78.78歳	85.47歳	79.40歳	85.91歳	80.61歳	86.84歳
全国	78.79歳	85.75歳	79.59歳	86.35歳	80.77歳	87.01歳

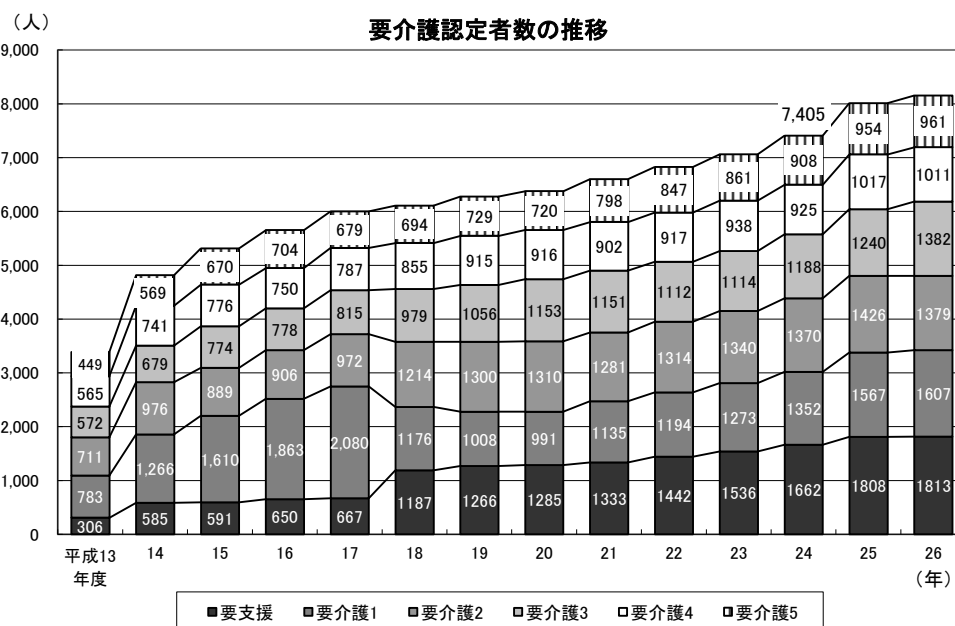
※厚生労働省「完全生命表」による
 ※平成27年の太田市の平均寿命は独自算出



※出典：健康福祉統計（群馬県健康福祉局）

(7) 要介護認定者数の推移

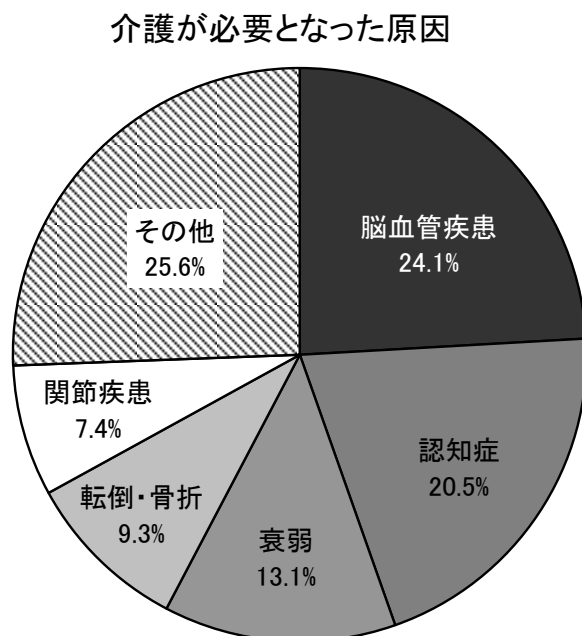
平成12年度から介護保険制度が始まり、要介護認定者の全体数は年々増加しています。



※出典：健康福祉統計（群馬県健康福祉局）

(8) 介護が必要となった原因

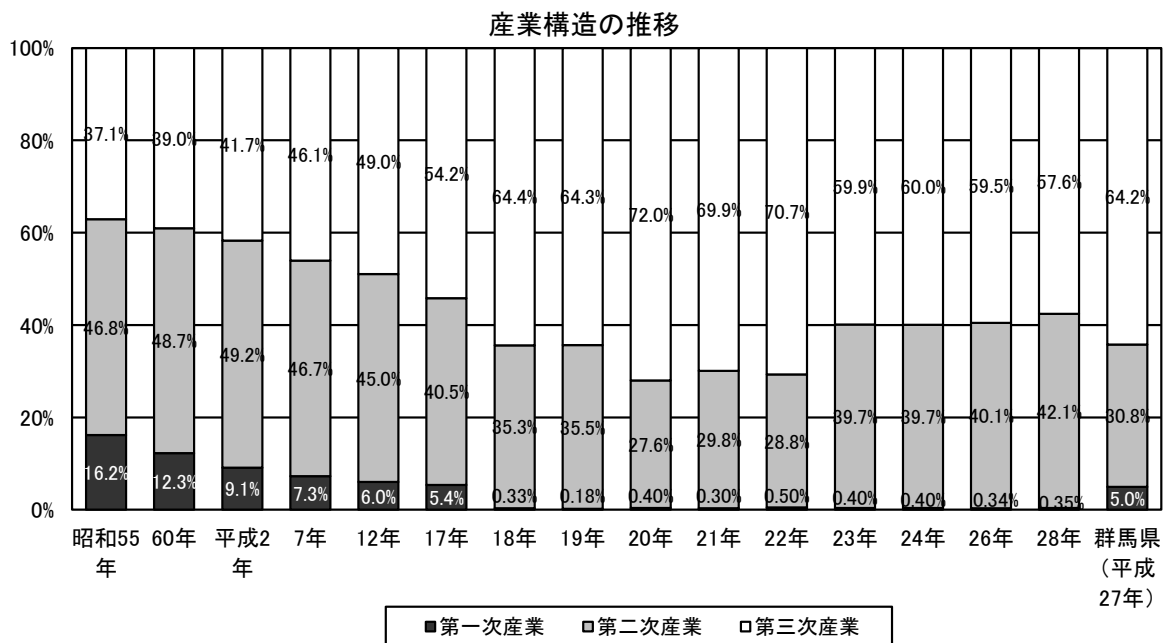
脳血管疾患が24.1%と最も多くなっており、4人に1人となっています。続いては認知症の20.5%、衰弱の13.1%となっており、転倒・骨折は9.3%となっています。



※出典：群馬県高齢者保健福祉計画（平成22年）

(9) 産業別就業人口（15歳以上）

太田市の産業別就業人口の割合の推移を見ると、第一次産業（農林水産業など）は年々減少しており、第二次産業（製造業など）は平成24年以降増加傾向にあり、28年には42.1%となっています。



※出典：国勢調査（平成17年まで）
平成18年～太田市統計より

第一次産業・・・農業・林業・水産業

第二次産業・・・鉱業・製造業・建設業

第三次産業・・・商業・運輸通信業・金融保険業・公務・自由業など

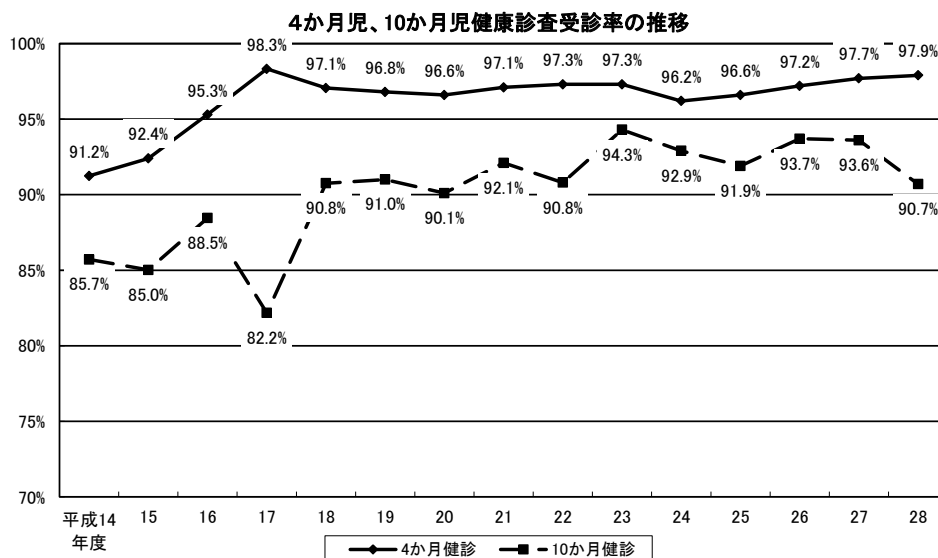
その他のサービス業

保健事業の現状

(1) 4か月児、10か月児健康診査受診率の推移

4か月児健康診査の受診率は平成16年度から95%を超え横這いに推移し、平成28年度は97.0%になっています。

10か月児健康診査の受診率は平成18年度から90%台で推移し、平成28年度は90.7%になっています。

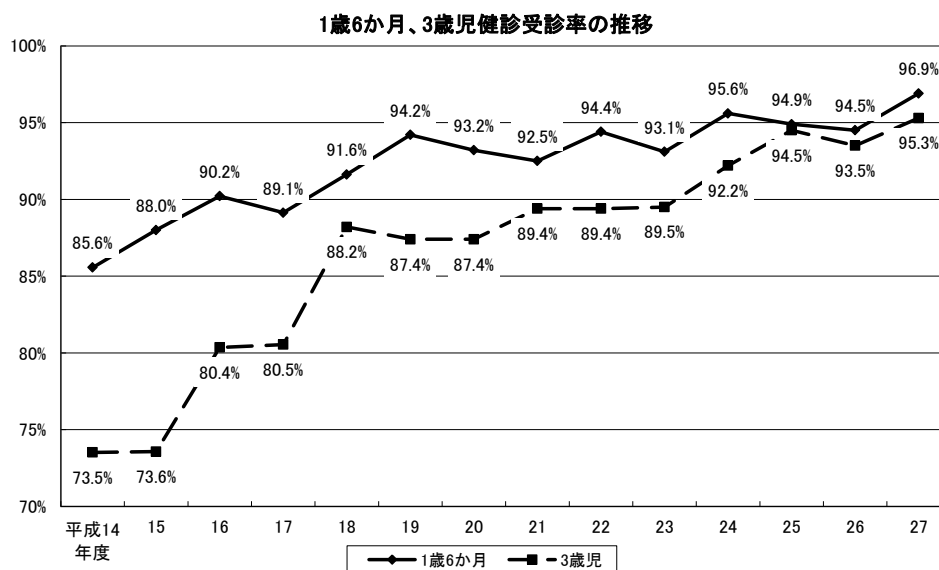


※出典：母子保健事業報告（群馬県健康福祉局）

(2) 1歳6か月児、3歳児健康診査受診率の推移

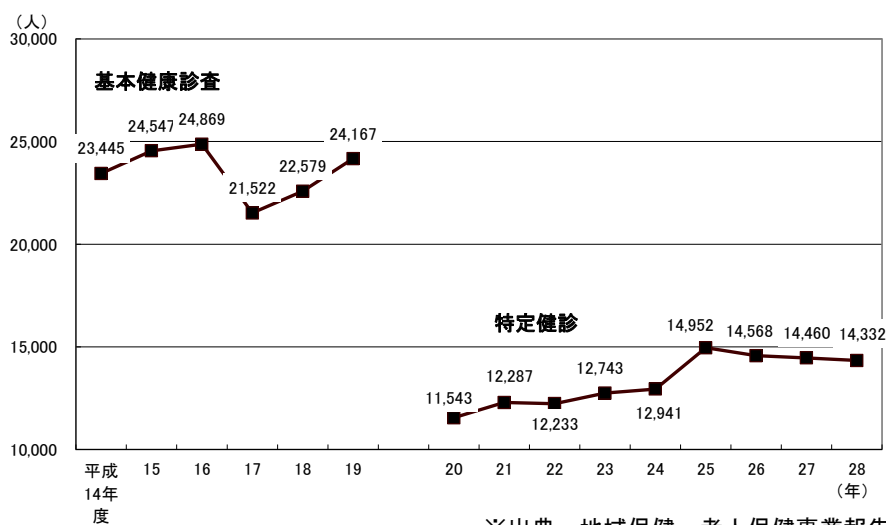
1歳6か月児健康診査の受診率が平成27年度は96.9%になっています。

また、3歳児健康診査は1歳6か月児健康診査に比べると受診率は低くなっていますが、平成16年度から増加して、平成27年度は95.3%になっています。



※出典：母子保健事業報告（群馬県健康福祉局）

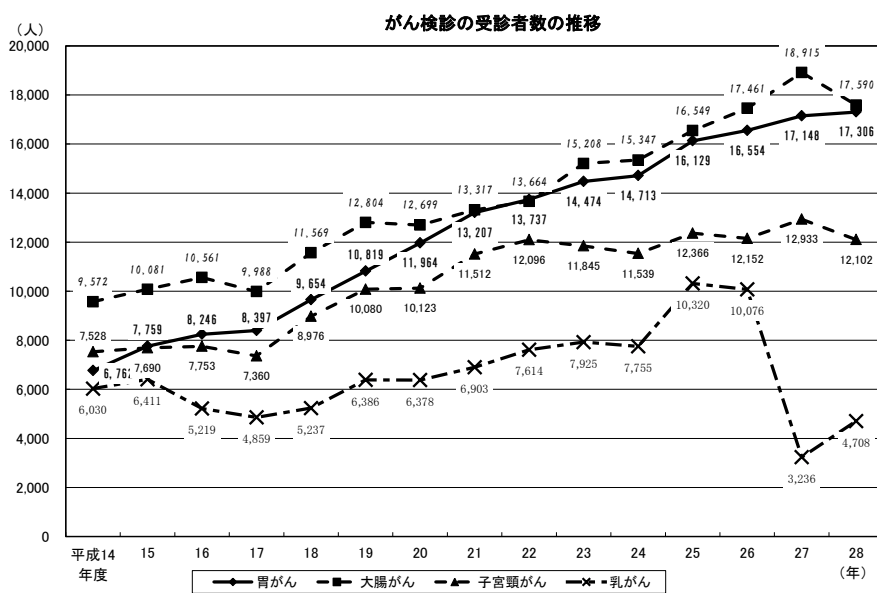
(3) 基本健康診査(40歳以上)→特定健診(国保加入者40歳以上75歳未満)
 平成19年度までは老人保健法による基本健康診査であったが、平成20年度から特定健診へ移行し、対象者が国保加入者となりました。



※出典：地域保健・老人保健事業報告(平成19年度まで)
 法定報告(平成20年度から)

(4) 各がん検診受診者数の推移

がん検診の受診者数は概ね横ばいで推移しています。



※出典：地域保健・老人保健事業報告(平成19年度まで)
 地域保健・健康増進事業報告(但し、胃がんは内視鏡、乳がんは視触診のみを含む)

※乳がん検診は平成16年度から対象者が30歳以上から40歳以上の女性に変更。

※子宮頸がん検診は平成17年度から対象者が30歳以上から20歳以上の女性に変更。

(但し、集団検診は平成20年度から変更)

2 健康おおた 21 実施事業概要

母子保健事業

妊娠・出産に関する健康の保持増進の支援

- ・母子健康手帳交付（手帳の交付と妊婦健康相談）
- ・妊婦健康診査受診票交付（健診費用の一部を助成）
- ・マタニティセミナー（お産の経過と母乳の話）
- ・食のセミナー（妊娠中・産後の食生活と乳幼児の栄養の話）
- ・歯科セミナー（妊娠中と乳幼児の歯の話・歯みがきの指導）
- ・不妊治療費助成事業（不妊治療費用の一部助成）
- ・不育症治療費助成事業（不育治療費用の一部助成）

乳幼児の健康保持増進の支援

- ・4か月児健康診査（診察、育児相談、離乳食の話、地産米の配布）
- ・7か月児歯びもぐ教室（歯みがきの準備と離乳食の話）
- ・10か月児健康診査（医療機関で実施）
- ・1歳6か月児健康診査（診察、歯科診察、歯科・育児・栄養相談、地産米の配布）
- ・2歳児歯科健康診査（歯科診察、食事の話、歯科・育児相談）
- ・3歳児健康診査（診察、歯科診察、歯科・育児相談）
- ・発達相談（乳幼児の発育発達の相談）
- ・ことばの相談（ことばなどに不安を持つ乳幼児と保護者の相談）
- ・すくすく親子教室（乳幼児の成長発達に合わせた接し方を促す教室）

母子の健康の保持増進と子育て支援

- ・あかちゃんセミナー（これから親になる人などを対象に乳幼児の発達の話）
- ・母乳相談（3か月未満の産婦と乳幼児の母乳の相談）
- ・母乳サロン（母乳の相談と妊産婦の交流）
- ・子育て相談（子育て、栄養などの相談・歯科相談）
- ・新生児訪問指導（1か月未満の新生児の訪問）
- ・乳幼児訪問指導（3か月前後の乳児の訪問や経過観察が必要な児の訪問）
- ・産後ケア事業（産後の母親と新生児が日中、助産院でケアを受ける費用の助成）

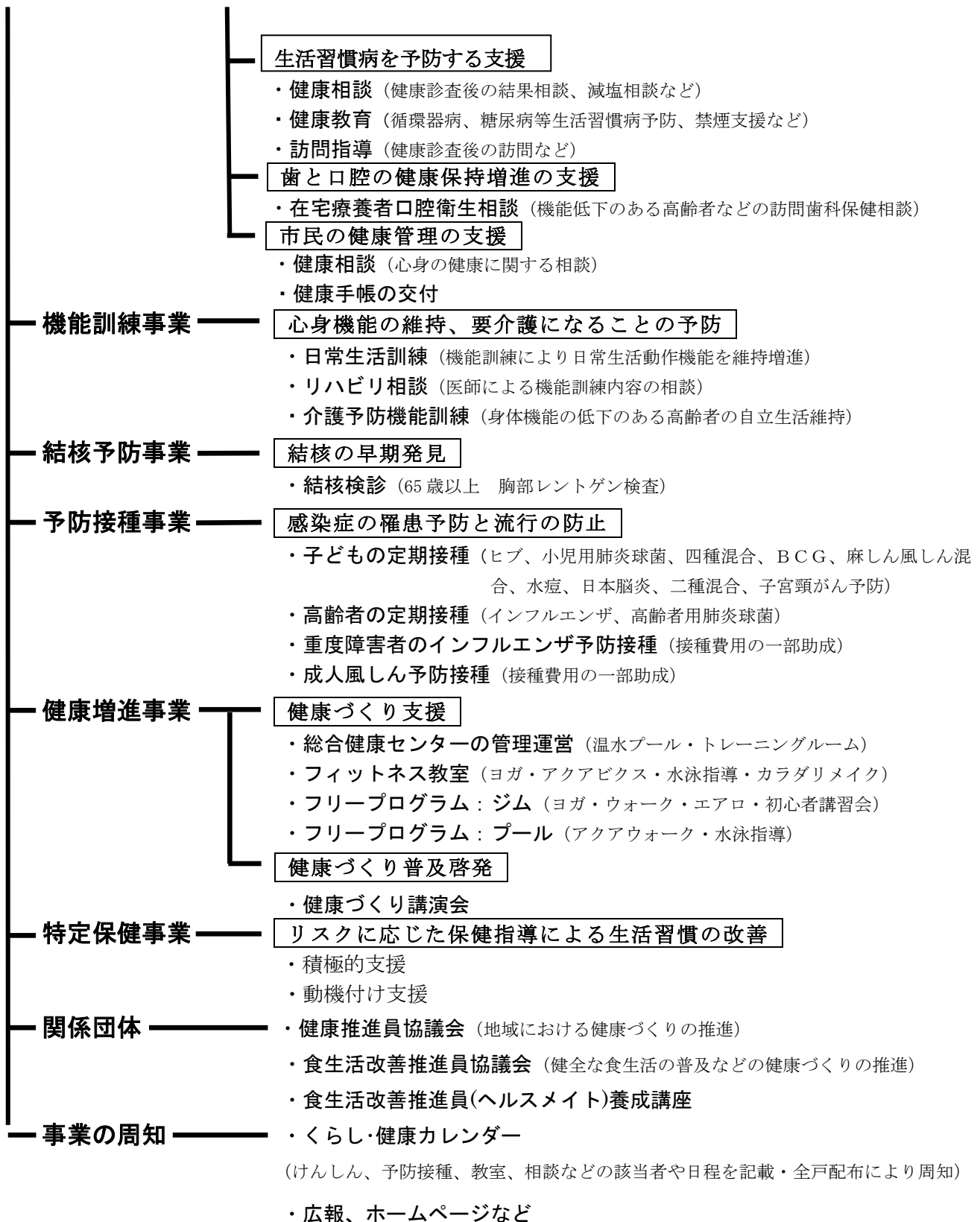
成人保健事業

生活習慣病などの早期発見と改善の支援

- ・特定健康診査（40歳以上太田市国民健康保険加入者、群馬県後期高齢者医療制度加内臓脂肪型肥満に着目した健診）
- ・肝炎ウイルス検査（40歳以上5歳刻みの年齢で肝炎ウイルス検診未受診者 B型・C型肝炎ウイルス検査）
- ・ヘルスチェック（25・30・35歳・40歳以上の生活保護世帯員 循環器病や糖尿病の健診）
- ・骨粗しょう症検診（30・35・40・45・50・55・60・65・70歳の女性 かかとの骨を超音波を使い測定）
- ・歯周病検診（40・45・50・55・60・65・70歳 口腔内診査・予防のアドバイス）

がんの早期発見の支援

- ・胃がん検診（40歳以上 バリウムを飲んで胃の検査又は胃内視鏡検査）
- ・大腸がん検診（40歳以上 便潜血検査）
- ・子宮（頸部）がん検診（20歳以上女性 視診・細胞診・内診）
- ・乳がん検診（40歳以上 前年度未受診者 マンモグラフィ）
- ・前立腺がん検診（50～74歳男性 血液によるPSA検査）
- ・肺がん検診（40歳以上 胸部レントゲン検査 問診の結果により該当者は喀痰検査）



3 「健康おおた21」役割施策

特定7分野	地域の役割	行政の役割	具体的な施策
1 食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活講習会や食育事業などに興味を持ち積極的に参加しましょう。 ・地域の人たちが誘い合っ て協力参加しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育推進事業などを実施し、市民の適正な食習慣を目指します。 ・母子保健事業などにおいて、栄養指導や相談を行います。 ・成人健康診査(特定健診など)後の健康教室など栄養指導の充実を図ります。 ・その他、各種事業の推進及び県事業などと連携し情報提供をします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健康診査及び子育て相談時の栄養指導 ・妊婦を対象とした「食のセミナー」の開催 ・歯ぴもぐ教室、2歳児歯科健康診査での栄養指導 ・成人健康診査(特定健康診査など)後の栄養指導 ・食生活改善推進員(ヘルスマイト)養成講座の開催 ・太田市食生活改善推進員協議会(ヘルスマイト)活動の支援
2 運動習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で行われる運動会などに参加しましょう。 ・気軽にできる運動教室などを地域で開催します。 ・地域で開催される運動教室などに地域の人たちと誘い合っ て参加しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に取り組みやすい環境整備に努めます。 ・その他、各種事業の推進及び情報発信をします。 ・成人健康診査(特定健診など)後の運動指導を充実します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育事業 ・成人健康診査(特定健康診査など)後の運動指導 ・総合健康センターの各種事業
3 休養とこころ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で行われる交流会などに参加し、コミュニケーションを深めましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に市民の相談にのります。 ・こころの健康に関する機関の情報提供を行います。 ・休養とこころの健康に関する知識の普及に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康相談事業(保健師・栄養士等) ・健康教育(休養と睡眠、こころの健康など)
4-1 生活習慣 (たばこ)	<ul style="list-style-type: none"> ・たばこの健康への影響について知識を深め、禁煙を推進します。 ・未成年者の喫煙を防止しましょう。 ・行政が行う施策に参加し、協力します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たばこの健康に及ぼす影響について、知識の普及を行います。 ・成人健康診査(特定健康診査など)後の改善のための支援を行います。 ・各種事業の推進及び情報発信をします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成人健康診査(特定健康診査など)後の改善のための支援(結果説明会、健康教室、禁煙相談など) ・たばこの健康に及ぼす影響についての知識の普及

特定7分野	地域の役割	行政の役割	具体的な施策
4-2 生活習慣 (アルコール)	<ul style="list-style-type: none"> ・未成年者の飲酒を防止しましょう。 ・節度ある飲酒を推進しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコールと健康についての知識の普及を行います。 ・成人健康診査(特定健康診査など)後の改善のための支援を行います。 ・各種事業の推進及び情報発信をします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成人健康診査(特定健康診査など)後の改善のための支援(特定保健指導、健康教室など) ・アルコールと健康についての知識の普及
5 歯の健康	<ul style="list-style-type: none"> ・行政が行う歯科保健相談などに協力し、地域の人の参加を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期から歯科検診・保健指導を行い、歯科保健の向上に努めます。 ・成人の歯周病検診の啓発などに努め、歯周病予防に取り組めます。 ・高齢期の歯と口腔の健康増進に、関係機関と連携して努めます。 ・生涯にわたり自分の歯を20本以上保とうという8020運動を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査の実施(歯科診察・歯科保健指導) ・歯周病検診 ・妊婦を対象とした「歯科セミナー」の開催 ・在宅療養者等訪問口腔指導
6 生活習慣病	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が健康診査を受けられるように普及啓発に協力します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関が連携し、成人健康診査(特定健康診査など)を実施します。 ・成人健康診査(特定健康診査など)の必要性について普及啓発します。 ・健康診査の結果により改善のための支援を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成人健康診査(特定健康診査など)の実施 ・ヘルスチェック(25・30・35歳の男性、女性) ・健康診査後の特定保健指導や健康教室の開催
7 がん	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が、がん検診を受けられるように普及啓発に協力します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関が連携し、がん検診を実施します。 ・がん検診の必要性について普及啓発します。 ・がん予防に関する生活習慣などの知識の普及を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種がん検診の実施(胃がん検診40歳以上・大腸がん検診40歳以上・子宮頸がん検診20歳以上女性・乳がん検診30歳以上女性・肺がん検診40歳以上) ・肝炎ウイルス検診の実施(40歳) ・がん予防の生活習慣などの知識の普及

4 「健康おおた21」最終評価について

太田市健康づくり計画の計画期間は、平成20年度から平成29年度までの10年間となっており、本年度はその最終年度となるため、特定7分野の目標（24評価指標 世代別目標で55項目の目標値）についてアンケートを実施し、目標値に対する達成状況を検証しました。（参照：太田市健康づくり計画 アンケート調査 結果報告書）

（1）全体の目標達成状況の評価

7分野の全指標55項目について、その達成状況を評価・分析すると下記のとおりとなります。なお、55項目中、Aの「目標値に達した」とBの「目標値に達していないが改善傾向にある」を合わせると23項目41.8%となり、目標達成、変化なしで約4割となり、改善が見られた項目もありました。

また、Dの「前回より目標値に対する評価が下がっている」が27項目19.1%となり、半数近くの項目で目標を達成できず、当初値より数値が減少している現状があります。

評価区分（策定時の数値と比較）	該当項目数	割合（％）
A 目標値に達した	10	18.2
B 目標値に達していないが改善傾向にある	13	23.6
C ほとんど変わっていない	5	9.1
D 目標値に対する評価が下がっている	27	49.1
合計	55	100.0

※「C ほとんど変わっていない」については、H19年度比±1.0ポイント未満のものとした。

(2) 分野別の評価

世代：若者（18歳～29歳）働き盛り（30歳～64歳）高齢（65歳以上）

1. 食生活

評価指標	世代	当初値	平成29年	目標値	評価	
朝食を毎日食べる人の割合	こども (小中学生)	92.0%	85.5%	100%	D	
	若者	64.4%	61.0%	70%以上	D	
	働き盛り	82.0%	75.9%	90%以上	D	
	高齢	96.0%	93.9%	100%	D	
野菜を毎日食べる人の割合	若者	71.1%	69.5%	80%以上	D	
	働き盛り	80.4%	77.0%	90%以上	D	
	高齢	90.9%	83.6%	100%	D	
乳類を毎日とる人の割合	若者	40.0%	24.4%	45%以上	D	
	働き盛り	47.2%	50.7%	55%以上	B	
	高齢	51.4%	59.5%	60%以上	B	
適切な食事量を知っている人の割合	若者	33.3%	39.0%	40%以上	B	
	働き盛り	58.0%	51.9%	65%以上	D	
	高齢	71.8%	63.7%	80%以上	D	
肥満者の割合	男性	若者	4.3%	23.5%	3.5%以下	D
		働き盛り	31.3%	32.0%	25%以下	C
		高齢	23.2%	19.0%	20%以下	A
	女性	若者	9.8%	8.5%	8.5%以下	A
		働き盛り	12.0%	10.5%	10%以下	B
		高齢	19.1%	16.6%	15%以下	B

- ・「朝食を毎日食べる人の割合」、「野菜を毎日食べる人の割合」については、全てのステージで当初値を下回る結果となっています。
- ・「乳製品を毎日とる人の割合」は目標を達成していないものの、当初値より改善が見られます。
- ・「肥満者の割合」については、男性では、若者の肥満者が増加しており、働き盛り世代はほぼ変わらず、高齢世代では、目標を達成しています。また、女性は概ね良好な結果となっています。
- ・食事は生活習慣病と密接な関係があり、健康を維持・増進するためには欠かすことのできないものです。また、子どもの成長や五感（味覚・嗅覚・視覚・触覚・聴覚）の発達のために、非常に重要であるため、健康な食生活確立することが重要です。
- ・また、肥満は糖尿病等のリスクが大きいことから、適正体重を維持するようさらなる啓発・周知を行うよう改善していくことが必要です。

2. 運動習慣

評価指標	世代	当初値	平成29年	目標値	評価
健康のため、意識的に体を動かしている人の割合	若者	56.8%	50.0%	65%以上	D
	働き盛り	53.8%	46.2%	60%以上	D
	高齢	72.5%	67.6%	80%以上	D
1日30分以上の運動を週2日以上行っている人の割合	若者	21.3%	17.1%	25%以上	D
	働き盛り	27.4%	25.6%	30%以上	D
	高齢	52.6%	48.9%	60%以上	D

- 全ての項目で、当初値を下回る結果となっています。特に、「健康のため、意識的に体を動かしている人の割合」では、全てのライフステージで、当初値との差が大きくなっています。
- 健康を維持するためには、歩くことを心がけ、身体を動かす機会や仲間を増やすことが大切です。そのことを認識していても、なかなか実行できないでいる人は自宅で簡単な運動を始めることなどで、身体を動かす習慣をつけることが必要です。
- また、生涯にわたり健康でいきいきと過ごすために、運動についての意識を高め、こまめに動き、自分にあった運動を楽しみながら行うことが大切です。

3. 休養とこころ

評価指標	世代	当初値	平成29年	目標値	評価
肉体的な疲れを翌日に持ち越さない人の割合	若者	57.8%	43.9%	65%以上	D
	働き盛り	50.8%	39.4%	60%以上	D
	高齢	61.1%	62.1%	70%以上	B
精神的な疲れを翌日に持ち越さない人の割合	若者	50.0%	37.8%	55%以上	D
	働き盛り	42.0%	37.0%	50%以上	D
	高齢	54.9%	53.3%	60%以上	D
睡眠が充分にとれている人の割合	若者	67.4%	70.7%	75%以上	B
	働き盛り	67.8%	56.1%	75%以上	D
	高齢	85.3%	69.8%	95%以上	D

- ・「肉体的な疲れを翌日に持ち越さない人の割合」の高齢世代、「睡眠が充分にとれている人の割合」の若者世代以外では、当初値を下回る結果となっています。
- ・特に、「精神的な疲れを翌日に持ち越さない人の割合」では、全てのライフステージで大きく当初値を下回っています。
- ・こころの健康を維持するためには、こころの病気に対する正しい知識を持ち、適切なストレス対処方法を学び、ストレスと上手につき合うことが必要であり、こころの不調に早く気づき、対応できるよう、こころの健康度に関する自己診断力の向上や、分かりやすい目安などの情報提供が必要です。
- ・睡眠時間の不足や睡眠の質的悪化は、うつ病などのこころの病や生活習慣病につながることから、睡眠と心身の健康の関連性や適切な睡眠のとり方など睡眠に関する健康の保持増進の普及啓発と、十分な質の高い睡眠がとれるための支援が必要です。

4-1 生活習慣(たばこ)

評価指標	世代	当初値	平成29年	目標値	評価
たばこをやめたいと思っている人の割合	男性 (20歳以上)	22.2%	59.2%	25%以上	A
	女性 (20歳以上)	30.8%	71.1%	35%以上	A

- 「たばこをやめたいと思っている人の割合」は、男女とも目標を達成しています。当初値と比較すると男性で2倍、女性で2.5倍の増加となっています。
- 喫煙については、たばこを吸っていない周囲の人への受動喫煙による影響が問題となっていることから、今後は、たばこの害に関する知識の普及、受動喫煙の害の防止、禁煙の指導、妊産婦及び未成年者の喫煙防止等を推進していく必要があります。

4-2 生活習慣(アルコール)

評価指標	世代	当初値	平成29年	目標値	評価
多量飲酒する人の割合	男性 (20歳以上)	5.6%	9.2%	5%以下	D
	女性 (20歳以上)	0.5%	1.8%	0.4%以下	D

- 多量飲酒する人は男女とも増加傾向にあり、当初値を下回っています。特に男性は約1割の人が多量飲酒となっています。
- 飲酒については、ほぼ毎日飲むという回答もあることから、毎日飲酒をせず休肝日を設けることなどの取組みを啓発していくことが必要です。

5. 歯の健康

評価指標	世代	当初値	平成29年	目標値	評価
むし歯のない幼児の割合	3歳児	70.1%	77.2%	80%以上	B
甘味食品・飲料を頻回飲食する習慣のある幼児の割合	3歳児	46.9%	28.3%	40%以下	A
中学生一人の平均むし歯数	中学生	2.37本	1.36本	2本以下	A
歯が全部(28本～32本)ある人の割合	若者	73.0%	85.4%	80%以上	A
	働き盛り	40.2%	42.3%	45%以上	B
歯が20本以上ある人の割合	高齢	38.8%	54.5%	45%以上	A
歯みがき・歯肉の手入れの指導を受けたことがある人の割合	若者	61.8%	62.2%	70%以上	C
	働き盛り	64.2%	67.7%	70%以上	B
	高齢	58.1%	58.9%	65%以上	C

※むし歯のない幼児の割合は平成28年度

- ・「甘味食品・飲料を頻回飲食する習慣のある幼児の割合」は、18.6ポイント減少し、28.3%となり、「中学生一人の平均のむし歯数」も1.36本以下、「歯が20本以上ある人の割合（高齢世代）」は、15.7ポイント増加し、54.5%となっています。
- ・その他の項目についても、当初値より悪化した項目はなく、概ね良好な結果といえます。
- ・歯は、おいしく食べる、会話を楽しむなど、豊かで質の高い生活を送るために欠かせないものです。歯の喪失原因となるむし歯や歯周病の発症には、生活習慣が大きく関与しており、ライフステージに応じ、むし歯や歯周病の予防を図っていくことが重要です。
- ・また、学童期より増加する歯肉の炎症を予防するため、毎食後の歯みがき習慣の定着が重要です。

6. 生活習慣病

評価指標	世代	当初値	平成29年	目標値	評価
成人健康診査の受診率(特定健診)	40歳以上 (働き盛り・高齢)	36.0%	38.8%	60%以上	B
定期的に健康診査や人間ドックを受けている人の割合	若者	57.3%	53.7%	65%以上	D
	働き盛り	65.2%	73.0%	75%以上	B
	高齢	71.7%	70.8%	80%以上	C

※特定健診の受診率は平成28年度

- ・市が実施する40歳以上の「成人健康診査の受診率（特定健診）」は、当初値より増加していますが、目標値には到達していません。
- ・「定期的に健康診査や人間ドックを受けている人の割合」は、働き盛り世代で当初値より改善しているものの、若者世代、高齢世代では、当初値を下回る結果となっています。
- ・認知症の原因の一つである脳血管疾患をはじめ、生活習慣病を予防するため、特定健康診査の受診率向上や特定保健指導の強化が必要です。

7. がん

評価指標	世代	当初値	平成29年	目標値	評価
胃がん検診の受診率	40歳以上	15.4%	23.5%	20%以上	A
大腸がん検診の受診率	40歳以上	18.4%	23.9%	25%以上	B
子宮(頸部)がん検診の受診率	20歳以上女性	22.7%	33.0%	25%以上	A
乳がん検診の受診率	40歳以上女性	18.3%	18.2%	20%以上	C

※がん検診受診率は平成28年度


- ・各種がん検診の受診率は、年々上昇してきており、特に胃がん検診、子宮（頸部）がん検診については目標値を達成しました。
- ・がんは日本人、そして太田市においても死因の第1位になっており、平成27年では、全死因の35%を占めています。がんの早期発見、早期治療のためにも積極的な受診が必要であり、受診の機会や環境を整える等、引き続き受診率向上に努める必要があります。

【資料】 評価指標と目標値一覧

分野	評価指標	世代	当初値	平成29年	目標値	評価	
食生活	朝食を毎日食べる人の割合	こども (小中学生)	92.0%	85.5%	100%	D	
		若者	64.4%	61.0%	70%以上	D	
		働き盛り	82.0%	75.9%	90%以上	D	
	野菜を毎日食べる人の割合	高齢	96.0%	93.9%	100%	D	
		若者	71.1%	69.5%	80%以上	D	
		働き盛り	80.4%	77.0%	90%以上	D	
	乳類を毎日とる人の割合	高齢	90.9%	83.6%	100%	D	
		若者	40.0%	24.4%	45%以上	D	
		働き盛り	47.2%	50.7%	55%以上	B	
	適切な食事量を知っている人の割合	高齢	51.4%	59.5%	60%以上	B	
		若者	33.3%	39.0%	40%以上	B	
		働き盛り	58.0%	51.9%	65%以上	D	
	肥満者の割合	男	高齢	71.8%	63.7%	80%以上	D
			若者	4.3%	23.5%	3.5%以下	D
			働き盛り	31.3%	32.0%	25%以下	C
女		高齢	23.2%	19.0%	20%以下	A	
		若者	9.8%	8.5%	8.5%以下	A	
		働き盛り	12.0%	10.5%	10%以下	B	
運動習慣	健康のため、意識的に体を動かしている人の割合	高齢	19.1%	16.6%	15%以下	B	
		若者	56.8%	50.0%	65%以上	D	
		働き盛り	53.8%	46.2%	60%以上	D	
	1日30分以上の運動を週2日以上行っている人の割合	高齢	72.5%	67.6%	80%以上	D	
		若者	21.3%	17.1%	25%以上	D	
		働き盛り	27.4%	25.6%	30%以上	D	
休養とこころ	肉体的な疲れを翌日に持ち越さない人の割合	高齢	52.6%	48.9%	60%以上	D	
		若者	57.8%	43.9%	65%以上	D	
		働き盛り	50.8%	39.4%	60%以上	D	
	精神的な疲れを翌日に持ち越さない人の割合	高齢	61.1%	62.1%	70%以上	B	
		若者	50.0%	37.8%	55%以上	D	
		働き盛り	42.0%	37.0%	50%以上	D	
	睡眠が充分にとれている人の割合	高齢	54.9%	53.3%	60%以上	D	
		若者	67.4%	70.7%	75%以上	B	
		働き盛り	67.8%	56.1%	75%以上	D	
		高齢	85.3%	69.8%	95%以上	D	

分野	評価指標	世代	当初値	平成29年	目標値	評価
生活習慣 【たばこ】	たばこをやめたいと思っている人の割合	男性 (20歳以上)	22.2%	59.2%	25%以上	A
		女性 (20歳以上)	30.8%	71.1%	35%以上	A
生活習慣 【アルコール】	多量飲酒する人の割合	男性 (20歳以上)	5.6%	9.2%	5%以下	D
		女性 (20歳以上)	0.5%	1.8%	0.4%以下	D
歯の健康	むし歯のない幼児の割合	3歳児	70.1%	77.2%	80%以上	B
	甘味食品・飲料を頻回飲食する習慣のある幼児の割合	3歳児	46.9%	28.3%	40%以下	A
	中学生一人の平均むし歯数	中学生	2.37本	1.36本	2本以下	A
	歯が全部(28本～32本)ある人の割合	若者	73.0%	85.4%	80%以上	A
		働き盛り	40.2%	42.3%	45%以上	B
	歯が20本以上ある人の割合	高齢	38.8%	54.5%	45%以上	A
		若者	61.8%	62.2%	70%以上	C
歯みがき・歯肉の手入れの指導を受けたことがある人の割合	働き盛り	64.2%	67.7%	70%以上	B	
	高齢	58.1%	58.9%	65%以上	C	
生活習慣病	成人健康診査の受診率(特定健診)	40歳以上 (働き盛り・高齢)	36.0%	38.8%	60%以上	B
		若者	57.3%	53.7%	65%以上	D
	定期的に健康診査や人間ドックを受けている人の割合	働き盛り	65.2%	73.0%	75%以上	B
高齢		71.7%	70.8%	80%以上	C	
がん	胃がん検診の受診率	40歳以上	15.4%	23.5%	20%以上	A
	大腸がん検診の受診率	40歳以上	18.4%	23.9%	25%以上	B
	子宮(頸部)がん検診の受診率	20歳以上女性	22.7%	33.0%	25%以上	A
	乳がん検診の受診率	40歳以上女性	18.3%	18.2%	20%以上	C

※がん検診受診率は平成28年度

 は目標を達成した現状値